

# ひょうごの福祉

2022

7-8

No.842

つながりで笑顔輝く 共生のまちづくり

特集

ヤングケアラーを支える  
仕組み・地域づくり



手軽に読める  
「ひょうごの福祉」WEBサイト



この機関紙は赤い羽根共同募金  
配分金により発行しています。

## CONTENTS



- 笑顔輝く 共生のまちづくり
- あなたのまちの社協活動
- キラリ ★ 社会福祉法人
- セルフヘルプグループのリアル
- 私の物語
- 県社協TOPICS



ふくみ  
福美ちゃん



ひょうた  
兵太くん

# ヤングケアラーを支える 仕組み・地域づくり



写真上から

当事者のつどいやイベントはスクールソーシャルワーカー同士で  
情報交換をする機会にもなります  
「兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」の開所式  
(県社会福祉士会)

近年、社会問題として認識されるようになってきた「ヤングケアラー」。兵庫県は、昨年度にその支援に関する検討委員会を開催し、「兵庫県ケアラー・ヤングケアラー支援推進方策」をとりまとめました。

また、国でもヤングケアラーへの支援が予算化され、各地で支援に向けた検討や実践が芽生えつつあります。

今号の特集では、ヤングケアラーの実情を知るとともに、当事者や支援現場の声を交え、ヤングケアラーを支える仕組みづくり・地域づくりに必要なことを考えます。

「ヤングケアラー」とされる  
ケアを担う子どもたち



病気や障害のある  
家族の身の回りの  
世話をしている



家族に代わって、  
幼いきょうだいの  
世話をしている



家族に代わって、  
料理や掃除、洗濯など  
家事をしている

## 明らかになりつつある ヤングケアラーの課題

近年、「ヤングケアラー」の言葉をよく耳にするようになりました。明確な定義は存在しませんが、一般的には「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話、介護、感情的なサポートなどを日常的に行っている子ども・若者」とされています。

この数年、国や自治体を実施する調査で、ヤングケアラーを巡る実態が明らかになりつつあります。例えば、令和2～3年度に国が実施した調査では、中学生の17人に1人、小学生の15人に1人がヤングケアラーだとする結果が公表されました。これは、概ね1クラスに1～2人の子どもが日常的にケアを担っている計算になります。

また、県でも令和3年度に、要保護児童対策地域協議会、子ども食堂、民生委員・児童委員などを通じて「ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査」を実施しました。以下、その調査結果から見えてきたことを抜粋して紹介します。

\* \* \*

▼ヤングケアラーとみなされる子どものうち、自分自身が「ケアラーである」という認識がある子どもは14・3%

育った環境が当たり前だと思っ

か、自身がケアラーだという認識を持つ子どもの割合は非常に少ないことが明らかになりました。この結果からは、ケアを担う子どもたちが自ら相談して助けを求めにくいことが考えられます。

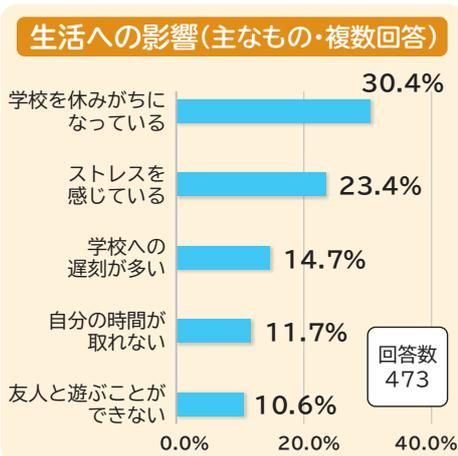
▼ケアの対象の過半数は兄弟姉妹、次いで母親。ケアの内容の上位3つは「きょうだいのケア」「家事」「感情面のケア」である

子ども・若者が担うケアは、対象も内容もさまざまです。祖父母の介護に限らず、実際には、障害を持つ兄弟の世話、病気がちの親に代わっての家事、身体介護だけではなく心のケアなど多様性があります。

▼ケアを担うことで生じる生活への影響は多方面に及んでいる

ケアによって子どもたちの生活にどのような影響が出ているのか、具体的な状況は（図

【図表1】生活への影響について



出典：令和3年度「ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査」（兵庫県）

表1)のとおりです。これらは学校生活の場面を中心に、子どもたちの置かれた状況や変化に気づく手掛かりになります。

\* \* \*

実態把握と並行して、ヤングケアラーへの支援が各地で徐々に始まり、ケアラー（経験者も含む）同士が集い、経験を分かち合うセルフヘルプグループが立ち上がる動きもあります。

ここからは、ヤングケアラーの当事者と支援にあたるスクールソーシャルワーカーへのインタビューを紹介し、支援に必要な視点や取り組み、求められる地域社会の姿を考えます。

## 当事者と専門職への インタビューから

### ①自分の経験を社会に伝えたい

原田 伊織さん（県内在住のヤングケアラー、大学生）

幼い頃に両親が離婚し、母子家庭で育ちました。母は仕事を頑張り、懸命に私たちを育ててくれましたが、うつ病を発症してしまいました。私たちの成長に伴い、周囲の支えが減ったことも背景にあったのかもしれない。4人兄弟の末っ子の私は、家事も手伝いでしたが、母の話を聞くな

に時間を使っていました。家には、児童福祉や生活保護のケースワーカーが関わっていましたが、子どもである私たちに声を掛けてくれた記憶はほぼありません。

自分の状況を人に打ち明けたのは、高校1年の時。宿題を出せないことを叱られ、どうしてもできないことを泣きながら訴えると、先生が家の状況に耳を傾けてくれました。その先生が、3年間担任として気持ちに寄り添ってくれたことに感謝しています。高校時代は、友達との遊びも我慢し、進学に備えてアルバイトに励みましたが、アルバイト先では自分の状況を打ち明けられませんでした。その頃は、自身の状態を表現する言葉を知らなかったのかなと振り返っています。

自身がヤングケアラーだと理解して大学生となった今、母との関係は、親子より支援者と支援を受ける人という関係に近く、悩みも無くはありませんが、私の経験が人のためになればと、「ふうせんの会<sup>※1</sup>」に参加し、運営メンバーとして関わっています。

ヤングケアラーへの支援が始まりつつあることは歓迎しますが、対象者探しだけが進み、子どもの思いを踏まえない支援がされないか懸念しています。専門的な支援に加えて大事なものは、それとなく気に掛け、声を掛けてくれる大人の存在。地域のつながりです。そのために、「ふうせんの会」の活動から、ヤングケアラーについて地域社会に発信できたいと思います。

※1…ヤングケアラーの当事者グループ。

ホームページは「うちうち」

<https://yycballon.org/index.html>



## ②子育て世帯が孤立しないつながりづくり

黒光さおりさん

(尼崎市教育委員会 スクールソーシャルワーカー)

はじめ、不登校、経済的困窮など、子どもを取り巻く環境はさまざまですが、介護や家事で大変だという相談はほとんどありません。大変だけど、家族の介護や家事にやりがいを感じている子どももいて、本人が「困りごと」だと認識していないためです。また、誰かに相談することで家族が責められるのではという不安も抱えています。

子どもは信頼する大人にしか悩みを話しません。無理に困りごとを聞き出さず、継続的に関わる中で自ら相談するのを待つようにしています。

小学校高学年であれば、置かれた状態を一緒に確認し、選択肢を用意しながら、子どもの意思を



実際の相談では、さまざまな道具を使って、子どもたちの気持ちを引き出す工夫も

尊重して今後に向けた動きを図ります。また、地域の集いの場（子ども食堂やカフェなど）を積極的に紹介し、子どもの世界を広げることが大切になっています。

学校の支援は、人事異動などで一年単位になり、卒業で関係も途切れがちです。子どもたちの心身と家庭環境の変化を継続的に見守るためにも、いつでも安心して相談できる人が複数いること、さまざまな角度から見守ることが大切だとも感じます。

「ヤングケアラー」とされる子どもたちの困りごとの多くは、ケアが必要な親や兄弟などに支援やサービスが行き届いていないことで生じます。親も、子どもに申し訳なく思いつつ、家族だけで頑張ろうとしています。社会から孤立した中で、子どもが外に助けを求めめることは困難です。私たちはそのような世帯と時間を掛けて関係を築きます。そして、家族と笑って世間話をできるようにすると、心を閉ざしていた子どもは途端に相談してくれることもあります。笑って何気ない話をすることは支援のスタートラインなのです。

また、「おはよう」「おかえり」といった地域での登下校の見守りや日常のあいさつも大切です。単身化や核家族化が進む中、ケガや障害を負った途端にその家族の生活は厳しくなります。普段から一人一人が孤立せず、SOSを出しやすいつながりを地域でつくるのが、ヤングケアラーだけでなく住民みんなが住みやすい社会をつくりまします。

## 家族のケアを担う全ての人に サポーターティブな地域社会を

今後、私たちにどのようなことができるのかを考えるため、ヤングケアラーを支える仕組みづくり、地域づくりに必要なことを整理します。

### ① 寄せられた相談への支援を 地域と共に考える

6月1日、「兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」が県社会福祉士会に開設されました。

その開所式の際、同会の谷口弘会長(当時)が、「学校関係者、民生委員・児童委員、社協など周囲の大人の気づきが必要。そのような方も相談を寄せて欲しい」「相談に寄り添い、市町や関係機関と連携して支援を進めたい」と語ったように、子どもたちが自らSOSを出しづらい実情を踏まえ、周囲の大人の気づきを相談につなげることが大切です。また、受け止めた相談は、ヤングケアラー本人が暮らす地域での専門職を交えた支援に展開させることが求められます。

### ■ 兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー 相談窓口

専用電話番号：078-894-3989

月～金、9:30～16:30  
(祝日・年末年始のぞく)

LINEでの相談は  
以下から



### ② 分野を越えた専門職間の連携

専門職による支援で重要なのは、ケアを担う子どもに加えて、ケアを必要とする親や兄弟などを含む世帯トータルでの支援を検討することです。例えば一つのケースでも、訪問介護や障害福祉サービスの利用、子どもへの食事や学習支援などさまざまなサポートが想定されます。そのためにも、学校関係者、福祉関係者でも、高齢・障害・児童・生活困窮者支援など分野を越えた専門職の連携が不可欠です。

### ③ 日常的な地域でのつながりと見守り

日常的に気に掛け、声を掛けてくれる大人の存在がヤングケアラーを孤立から救います。これは、専門職の支援が始まってからも同様です。つながりや見守りを途切れさせない地域づくりは、ヤングケアラーに限らず、さまざまなケアを担う人を支えるうえでも重要なことです。

### ④ 子どもの権利<sup>※2</sup>を尊重する視点

ヤングケアラー本人からの相談を受ける中では、子どもを保護するという観点に偏ることなく、子どもの権利を守り、その意思を尊重する視点も忘れてはなりません。

また、権利を尊重するという面では、セルフヘルプグループの組織化も大切です。これらのグループには、仲間同士で経験や情報を分かち合い、例えばどのような仕組みや支援が必要なのか、当事者が主体的に社会に向けて発信することが期待されるからです。

※2 子どもの基本的な人権を国際的に保障する「子どもの権利条約」では、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つの柱が定められています。

今後、地域社会が目指すべきは、ヤングケアラーを孤立させず、悩みなどを抱えこまないよう相談ができる体制をつくり、寄り添った支援を進めることです。兵庫県では、相談窓口の開設の他、支援に携わる専門職への研修や、当事者組織に関する支援が予定されています。ヤングケアラーに限らず、家族介護者(ケアラー)への支援の必要性が社会に認識され、誰もがつながりや支えを得て暮らしやすい地域づくりが大切です。



# 笑顔輝く

“笑顔”と“共生のまちづくり”につながる実践をレポート

## 共生のまちづくり

兵庫県立尼崎小田高校（以下「小田高校」）では、地域での防災・減災イベント、サロン活動や見守り訪問に力を入れています。今回は、尼崎市の小田地区で住民と共に進めている高校生の活動を紹介します。



### 地域に安心と笑顔を 生み出す、 高校生の取り組み

#### 被災地への訪問から活動を スタート

平成28年、小田高校の看護医療・健康類型の生徒たちは、熊本地震の被災地への訪問を機に、地元である小田地区での防災・減災活動が欠かせないと考えました。

生徒たちは、住民インタビューから自ら避難できない「災害時要支援者」の存在に気づき、また、授業で学びを深めながら、防災・減災を身近に感じてもらうイベント「小学生への防災出前授業」や「減災フェス」を企画・実施しました。これらには遊びの要素も取り入れ



遊びの中から地域と関わるきっかけづくりを行う



つつ、毎年、日頃の備えや要援護者支援を地域住民と共に考えています。

さらに、平成31年からは週1回住民が集う「あまおだサロン」の運営も自ら始め、顔の見える日常の関係づくりに取り組むなど、普通科の生徒も含む約90名が「あまおだ地域応援隊」の名で活動してきました。

#### コロナ禍でも、交流と協働 で地域に元気を

コロナ禍で、高齢・障害者施設で行っていたボランティア実践の授業ができなくなりました。そこで尼崎市社協支部が仲介し、昨年9月には「要支援者見守り・支え合い事業」が始まりました。これは、市と小田高校が協定を結び、生徒が民生委員と同行して孤立しがちな高齢者宅を訪問する、市内初の取り組みです。

訪問を受けた高齢者からは、「普

段話せない年代の子と身近に触れ合えて嬉しい」と喜ぶ声が寄せられ、生徒たちからは、地域との交流を通じて自身の進路と向き合ったという声もあがるなど、高齢者の元気と生徒の成長につながっています。コロナ禍でつながりの希薄化が危惧される中、学校、行政、社協、地域が連携し、小田地区には活気と笑顔が生まれています。

また、同校の卒業生たちも、今年、市社協の協力も得てボランティアサークル「V-O-O-D-A」を発足。中学生への学習支援に加え、今は、高校生が活動しにくい時間帯を中心にした高齢者への見守り活動に向けて動きだしています。

「あまおだ地域応援隊」を見守る、同校の難波滋先生は「学校が地域の拠点となり、活動を広げながら多くの市民とつながりたい」と、学校を核に地域を元気づけようと、する今後の展望を語ります。



民生委員も交えた訪問では、何気ない会話からニーズをくみ取る

#### 取材を終えて

学校周辺には小田高校の卒業生が多く住んでいて、生徒たちを後押ししてくれる温かい雰囲気があります。生徒の頑張りや地域住民の共感を呼び、共に地域を良くしたいという助け合いの相乗効果が強く感じられました。

#### ○兵庫県立尼崎小田高等学校

所在地 ▶ 尼崎市長州中通2-17-46

ホームページ ▶ <https://amagasakioda.ed.jp>



# あなたのまちの 社協活動

共生のまちづくりに  
向けて、市町社協が  
取り組むさまざまな  
活動を紹介します。



今回、紹介するのは

## 赤穂市社会福祉協議会

☎0791-42-1397

赤穂市社協

検索



## 支える側・支えられる側を超えた活動をサポートする

ひきこもりの悩みを抱えた本人とその家族へのサポートは、赤穂市社協が力を入れる活動の一つです。今回は、その居場所である「みんなのいえ」と、活動を支える社協の取り組みを紹介します。

### ■「当事者や地域の声」を形にする

市社協がひきこもり支援に向けて動き出したきっかけは、相談事業の中で、相談者が漏らした「福祉会館と病院以外に行く場所がない」という声を聞いたことです。市社協ではこの声を局内で共有し、“誰一人孤立させない”という思いから、ひきこもり支援事業を構想しました。同じ頃、市役所もひきこもりの実態調査を行うなど、支援策を模索していたため、連携して居場所づくりに取り組みました。先進地への視察や関係機関との課題整理・アイデア出しの検討会など、居場所の立ち上げまでにさまざまな工夫と準備を重ねました。

そして令和2年の秋、かつてデイサービス事業所として市社協が使っていた民家を活用して「みんなのいえ」がオープンしました。居場所開設の他に、月に1回のひきこもり家族のつどいの開催、市が設置する相談窓口「え〜る」をはじめ関係機関との連携や、ひきこもり支援ボランティア養成講座、啓発講座なども行っています。



社協職員と  
みんなのいえの  
スタッフ。  
みんなで一緒に  
楽しみながら  
運営しています

### ■「みんなのいえ」に集う全員が大切な主役

みんなのいえでは、育てた野菜を収穫して食べたり、部屋に花を飾ったりと、季節を感じてもらうことを大切にしています。また、みんなで時間を共有することで、自然と会話が生まれ、互いを知り、悩みを分かち合うきっかけにつながっています。

この他にも、みんなのいえによく来る方の特技を生かし、地域の給食サービスと連携して、折り紙で作った季節の花をお弁当に添えて届ける工夫を取り入れました。このことは、みんなのいえと地域とをつなげ、本人の生きがいになるだけでなく、民生委員がお弁当を届ける際のコミュニケーションにも役立っています。

市社協の河内悠希<sup>かわちゆうき</sup>さんは「集まる人同士が時間を共有し、悩みを語り合う中で生まれる笑顔を見ると、自分のことのように嬉しいです。家族の方も悩んでいるので、想いを話すことで少しでも笑顔になればと考えています。これからも居心地の良さを大切にしながら、活動していきたいです」と今後に向けた温かい気持ちを語ってくれました。



折り紙で作った  
ひまわりは地域に笑顔も  
届けています

### 活動のポイント

その人の強みや個性を  
尊重することで、全ての人  
がいきいきと活躍する  
地域活動につながる

取材を  
終えて

一方的な支援ではなく、本人と家族・地域とのつながりづくりや役割づくりを通して当事者をエンパワメントする大切さを改めて考える機会になりました。

# キラリ★社会福祉法人

神戸市北区  
社会福祉法人連絡協議会  
(ほっとかへんネットKOBE・北)

暮らしを支える  
地域公益活動を  
紹介します。



いちご狩りで  
ひとり親家庭の  
交流のきっかけづくり

## 法人が持つ専門性を発揮した孤立させないつながりづくり

平成29年4月に設立された「神戸市北区社会福祉法人連絡協議会（以下、ほっとかへんネット）」は、区内の42法人が参画して活動を進めています。今回はコロナ禍で社会的孤立が深刻化する中、ひとり親家庭に向けた交流会など、孤立を防ぐために協働する活動について紹介します。

### つどい場や居場所へ 参加するための「移動」を支援

市内で最も面積が広い北区は、都市部ながら移動の問題が生活課題になる地域です。ほっとかへんネットの設立前から、ふれあいのまちづくり協議会と一部の社会福祉法人が協定を結び、法人の車両を活用した移動支援を行っていましたが、ほっとかへんネットの設立後は、多くの法人が移動支援に参加し、活動は区全体に広がっています。

移動支援と並ぶ力を入れるのは、つどい場への支援です。これは北区社協と連携して、地域のつどい場へほっとかへんネットの法人職員が出向いて、介護予防や子育てなどの得意な分野の講座を行うなど専門性を発揮した支援を行っており、移動支援と連動した送迎も取り入れるなど、多くの人が参加できるよう工夫をしています。



法人の車を活用して、つどい場への移動を支援

### ひとり親家庭を 孤立させないための交流事業

令和3年度、新たに取り組んだのが「ひとり親家庭」の交流事業です。コロナ禍で、ひとり親家庭が、生活困窮に陥ったり、就労・子育てに追われ地域で孤立することが心配されています。

そこで、ほっとかへんネットの加入法人が協働して、北区社協企画の「春休み親子収穫体験&交流会」と題した、いちご狩りツアーとコラボ。当日は7組18人の親子の参加がありました。

子どもたちは、保育園の保育士



「ひとり親家庭」の交流事業では、子どもたちが保育士とゲームを楽しむ間、児童養護施設の職員が親同士の情報交換をサポート



と一緒にゲームを楽しみ、親がゆっくり交流できる空間を提供。児童養護施設の職員が講師・進行役となり親同士の情報交換を進めました。講師からは「親が楽しくしていないと子どもに連鎖する。悩みは抱え込まず相談して」とアドバイス。

参加者からは「頼れる親類も居ないので、普段子どもにしてあげられない事を手助けしてもらい、うれしかった」「悩みに共感してもらえて頑張る勇気がわいた」と満足そうな声が聞かれました。

ひとり親家庭を取り巻く課題の他、地域には、ひきこもりや不登校など社会的孤立と隣り合わせの課題があります。これらを見据え、誰も地域で孤立させないためのほっとかへんネットの活動の今後に期待が寄せられています。

ほっとかへんネットKOBE・北  
事務局：社会福祉法人  
神戸市北区社会福祉協議会

TEL：078-593-1111(代)

記事にある活動のほか、地域住民向けのほっとかへんネットのリーフレットの作成やオンラインを活用した世代間交流活動などにも取り組み、コロナ禍でも活動を進めています。

ホームページもぜひご覧ください。  
[http://kita-shakyo.or.jp/  
cms/hotokahennet/](http://kita-shakyo.or.jp/cms/hotokahennet/)



# セルフヘルプグループの リアル

大切にしているのは  
何でも話せる雰囲気づくり



## 曇りのち晴れ

うつ病当事者が抱える思いや生きづらさ、経験などを語り合い、社会復帰の契機としてもらうことを目的とした自助グループ「曇りのち晴れ」。かつては当事者の立場で参加し、現在は世話人代表である吉本浩士さんにお話を伺いました。

### グループの概要

名称 曇りのち晴れ

定例のつどい開催日 月2回程度

活動場所 神戸クリスタルタワー6階  
ミーティングコーナー



▲Facebook

開催日時はFacebookでお知らせしています



## Q1. グループの立ち上げや ご自身が参加したきっかけは

**A.** 「曇りのち晴れ」は、ひょうごセルフヘルプ支援センターにうつ病グループの問い合わせが相次いだことから、平成18年に開設されました。

私が初めて訪れたのはおよそ11年前です。当時の私は、うつ症状に苛まれ、荒んだ生活をしていました。そうした渦中で、私は人や社会とのつながりを持つと、自分を取り戻すために助けを求めました。それは生への本能、渴望だったと思います。

初めて参加した時のことは今も鮮明に覚えています。何もわからずに突っ立っている私を、何も問わずにそっと空席に促してくれた時の安堵感は、人生のターニングポイントです。以来、「曇りのち晴れ」の活動は私のライフワークです。

## Q2. 現在どのような活動に 力を入れていますか

**A.** 現在は2週おきに定例会を開催しています。定例会の基本は「語り合い」です。「語り合い」は、参加者相互によるうつ歴を軸に、症状や思い、自身と他者との共通点や違いを分かち合うことで、わだかまりやもどかしさから解放されるきっかけになります。そして、分かち合う経験を重ねるほど、孤独や孤立から自律（立）につながり、心身の回復や改善に向かうことが期待されます。

また、ミニイベントとして、ベテラン参加者の経歴を生かした「ミニ講演会」、同一の事象に対して意見を述べ合う「座談会」の他、「ぶっちゃけ相談会」などを開催して評価を得ています。今後も新しい企画を取り入れてグループを活性化させていきたいです。

## Q3. 社会に望むことやグループの目標は何ですか

**A.** コロナ禍で心身にダメージを負い、うつ症状に苦しむ人が増えていること、また、近年は若年層に新型のうつ傾向があるとも聞きます。

グループに集う当事者たちも、時代の変化に戸惑いながらも敏感です。従前のうつ病に対するイメージやその現実から、社会のあり様とともに変わりゆくうつ病の広がり（一般化）を感じざるをえません。

うつ病というと、心身の問題と思われがちですが、実際は、生活ひいては人生の立て直しが大きな問題となります。参加者の語りのほとんどが人生相談なのは、身の置き所や将来への不安、つまり生きづらさの表れなのです。

時代が変わっても、人との出会いと語り合い、未来への希望が、人に「ひとりじゃない」ことを実感させます。「曇りのち晴れ」はそうした居場所であり続けたいと思います。



# 本人の望みを叶える 支援を目指して

いなば なつき  
**稲葉 夏輝** さん

社会福祉法人福住山ゆりの里  
介護老人福祉施設やまゆりの里 主任生活相談員

## Personal History

平成21年 専門学校を卒業し京都府のデイケアに就職  
平成23年 古民家を活用した小規模デイサービス「ひだまり」に就職  
平成25年 「ひだまり」の援助を受け祖母を自宅で看取る  
平成29年 「社会福祉法人 福住山ゆりの里」に入職

## 私の物語 my story

このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・思いを紹介していきます。

私の  
モットー

長所で勝負



### 人との出会いや 経験で得た 私なりの介護観

私が10歳の頃、知的障害のある大叔母が亡くなった際、「障害のため思うような人生を送れなかったのでは」というお坊さんの言葉が、福祉に関心を持つきっかけとなりました。中学校の職業体験で介護職に魅力を感じ、定時制高校に入学してからは、昼は幼稚園で働き、夜は介護の勉強に励みました。私の介護観が定まることになった経験が、父方の祖母を自宅で看取ったことです。祖母は胃がんの末期で吐血して倒れ入院中でしたが、本人の意思を尊重して自宅に戻ることを決断。私が勤務していた小規模デイサービスも利用しつつ、慣れた環境に安心した祖母の体調は奇的に回復しました。やがて祖母は穏やかに旅立ちました。が、本人の望みを叶える大切さを学び、私の福祉マインドを変える大きな転機になりました。

この後、「祖母のような最期を大きな施設でも実現したい」と転職しましたが、看取りに向けて提案した研修への協力を得られず、力不足で実現できずにいました。



### 介護の魅力を 多くの人に伝えたい

そんな時、やまゆりの里から声を掛けてもらい、志を叶えようと転職して今に至ります。やまゆりの里では、施設の協力も得て、今では月3回の研修を実施。看取りも視野に、利用者が望む生活を叶える介護技術と福祉マインドを職員間で楽しく学び合っています。研修で職員の意識も変わり、主体的に仕事に取り組みむ姿から手ごたえを感じています。

私が実感してきた介護の魅力ややりがい、感動を広く伝えたいと考え、平成30年に施設のインスタグラムを始めました。ここでは「当たり前」の日常を毎日投稿し、利用者の人生エピソードや職員の思いを交えて発信するのがこだわりです。フォロワーは1万1千人を超えましたが、情報発信の取り組みは相乗効果を生み、施設ではBQや居酒屋、映画館など楽しめる企画づくりも盛んです。

介護に対するイメージはさまざまですが、利用者との関わりで得られる学びや楽しさが何よりの魅力



丹波篠山市に昔あった映画館を再現！  
かつての集いの場が施設内で復活しました



介護の仕事をしていることを伝えようと「大家やねえ」って言われることが多いんです。大きなことは否定するつもりはないですが、その中にある事が止まらなくなるほどの感動や、やりがい、入居者さんから教えてもらえる知識や経験など介護の仕事だからこそ味わえることがあることをお山のの方に知ってもらえるように頑張りたい🔥

利用者の笑顔や職員の思いを毎日発信  
Instagram アカウント@yamayurinosato



です。その魅力を発信し続け、一人でも多くの人が介護にプラスのイメージを持てるよう取り組むことが今の目標です。「やまゆりの里があるから安心」と地域住民から一目置かれる施設を目指して、今後も限界を決めつけず挑戦していきたいです。

社協の組織基盤強化に向けた方向性を共有

6月2日、県社協では、「社協経営セミナー（組織管理編）」をオンラインにて開催。44社協から事務局長など75名が参加しました。

県内社協の令和2年度の決算では6割弱が赤字状態で、特に、法人運営・地域福祉、相談支援の事業を担う「制度サービス以外の部門」は非常に厳しい財務状況にあります。

このため、県社協では、令和3年度に「社協経営検討会議」を設置し、社協の財務状況や、行政の補助金・委託金を主な財源とする同部門の人件費財源の現状を踏まえつつ、社協の基盤強化に向けた今後の方向性を整理しました。

今回のセミナーはその方向性を共有するとともに、4市社協の事務局長（尼崎市社協、豊岡市社協、養父市社協、朝来市社協）に登壇いただき、財源確保や組織改編、職員育成などの具体的な取り組みを共有しました。

法人全体の財政改善に向けた取り組みでは、尼崎市社協の行政との補助金などの積算ルール設定に向けた協議や、職員意見に基づく

収支改善計画の策定、豊岡市社協の役員間での毎月の経営指標の共有、養父市社協の行政との将来的な予測を交えた補助金・委託金の粘り強い協議や、役員全体で財政改善に取り組む必要性が共有されました。

また、「制度サービス以外の部門」の補助金などの改善については、養父市社協の市長や市議会への直接要望などの取り組みが報告されました。

さらに、豊岡市社協の中期経営計画の策定や、人材育成を重視した人事考課、朝来市社協の全職員による1週間の気づき報告など、財政改善以外のさまざまな方策をセットにして、社協全体で包括的な支援体制づくりを進める重要性も共有されました。

今後、各社協の実情に応じた改善策の検討に資するよう、県社協では、今回の事例報告の要旨も含めた、同検討会議の報告書を発行する予定です。

「令和5年度の兵庫県社会福祉政策への提言」について協議

6月29日、県福祉センターにて、第1回社会福祉政策委員会が開催され、各福祉関係団体から提出された提言をもとに協議しました。委員会でのさまざまな意見を受けて、重点提言などの議論を深め、今後も委員会で協議を重ね提言を作成します。



委員会では、包括的支援体制づくり、福祉人材の確保をはじめさまざまな提言について議論を重ねました

寄付・寄贈のお礼

本年5月、兵庫ヤクルト販売株式会社から西脇市社会福祉協議会および播磨町社会福祉協議会に、車両が寄贈されました。

同社は社会貢献活動の一環として「福祉ヤクルト運動」を展開し、地域福祉の向上に多年にわたって取り組まれ、令和3年度は同社創立65周年として、2台の車両を寄贈いただきました。

温かな善意に対し、ここに感謝申し上げます。

車両は地域の福祉活動のために活用されます



西脇市社会福祉協議会



播磨町社会福祉協議会



谷口教授から、福祉分野で初めて働く受講者に向けて丁寧な講義がありました

6月24日、福祉人材研修センターでは、福祉現場で働く新任・中堅職員を対象に、制度の知識や権利擁護、職業倫理などの基礎を学ぶ「はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（基礎編）Aコース」をオンラインで開催。高齢、障害、保育、児童、社協など幅広い分野から、定員を上回る58名が参加しました。講師の関西福祉大学社会福祉学研究科の谷口泰司教授から、事例を交えて意思決定支援の意義や自立支援の考え方などの講義がなされ、幅広いテーマの要点を丁寧かつ熱心に解説いただきました。

兵庫県福祉人材研修センター  
 新規研修のご紹介！

最後に、チャットを活用して、参加者の研修での気づきや日々の葛藤を分かち合いました。受講後は「福祉の仕事に誇りと自覚を持つて取り組む意識を新たにしたい」などの感想も得られ、自身の支援を振り返る契機として充実した時間となりました。

なお、10月に同研修のBコースを実施します。お申込みは当研修センターホームページからお願いします。

[https://hfkensyu.com/app/app\\_5144/](https://hfkensyu.com/app/app_5144/)



今年度実施予定の新規研修をご案内します

「組織マネジメント基礎講座」(動画配信！)

『管理職になったものの、何をどう学べばよい?』そんな声にお応えすべく、「まずはこれだけ」と内容を絞り、オンライン動画で学べる講座を新たに開講します。定期的に届く講師メッセージ付きメールで、忙しいあなたの学習をサポートします。

期間：8月から順次開講（※1か月ごとに受講者を募集）

内容：「経営・マネジメントの基本を知る」

「職員の動機付けとコミュニケーション」等

講師：菅間 克雄氏（兵庫県立大学大学院教授）

お申込みは研修センターホームページから  
[https://hfkensyu.com/app/app\\_5310/](https://hfkensyu.com/app/app_5310/)



福祉の就職説明会 in HYOGO 開催日程

日程	対象エリア	開催地	出展法人数 (予定)
令和4年9月24日(土) 13:00~16:00	阪神・丹波	西宮市 西宮市フレンテホール	24法人
令和4年10月15日(土) 13:00~16:00	中播磨・西播磨・ 但馬	姫路市 ホテル日航姫路	16法人
令和4年10月22日(土) 13:00~16:00	東播磨・北播磨・ 淡路・神戸	明石市 あかし市民広場	26法人



イメージキャラクター  
 作：尼子驛兵衛



兵庫県福祉人材センターでは、この秋、学生や福祉職経験者だけでなく福祉職未経験の中高年の方も含めて、あらゆる世代を対象とする、地域に密着した福祉の就職説明会を県内3か所で開催します。出展する法人の情報など詳細は、県社協ホームページに掲載する予定です。

地域に密着した  
 就職説明会を開催

バリアフリーの宿



みなさまのご利用を  
 心よりお待ちしております

浜坂温泉保養荘

平日 1泊2食付き  
 大人お一人様 (65歳以上の方)

7,500円(税込)~

※各種プランを揃えております。詳細は当荘にお問い合わせ下さい！

兵庫県美方郡  
 新温泉町浜坂775 TEL 0796-82-3645



最新情報は  
 公式サイトへ

